



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

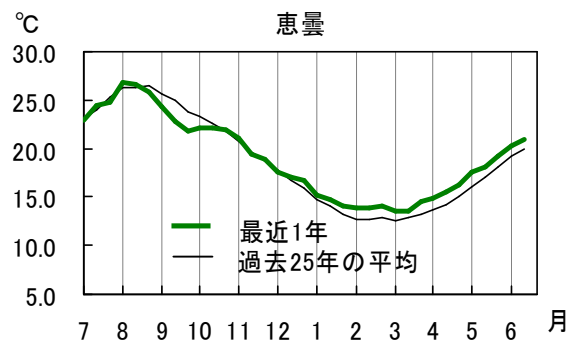
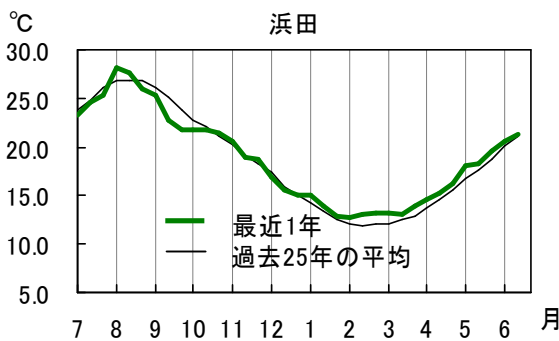
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

## 《5-6月の海況》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.7℃	+0.9℃	かなり高め
恵曇	18.3℃	+1.2℃	かなり高め

沿岸定地水温は、5月は浜田、恵曇とも平年よりかなり高めとなりました。6月に入ってから浜田、恵曇とも平年よりやや高めに推移しています。



## 《5月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

浜田はマアジ主体の漁況で、漁獲量は時化の影響で平年の6割に留まりましたが、大型サイズ(2歳魚主体)のマアジが比較的多く漁獲されたことから、漁獲金額は平年の1.3倍となりました。浦郷は浜田と同様にマアジ主体の漁況で、昨年多獲されたカタクチイワシの漁獲が無かったことなどから漁獲量は平年の9割に留まりましたが、漁獲金額はマアジの好漁により平年の1.6倍となりました。西郷も浦郷と同様にマアジを主体に漁獲量、金額はそれぞれ平年の8割、1.2倍となりました。

## 【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではスルメイカ中心の漁況で、前月と同様に漁獲量は平年の7割と低調に推移しました。西郷(属人5トン以上)もスルメイカ中心の漁況で、漁獲量は平年の1割と低調に推移しました。

## 【沖合底びき網漁業】

浜田港では1ヶ統1航海あたり漁獲量は前年、平年(過去10年平均)を上回りました。漁獲の主体はムシガレイ、アナゴ、アンコウでした。ムシガレイは小型中心ながら前年の1.4倍、平年の1.7倍の漁獲があり、好調に推移しました。

## 【小型底びき網漁業】

久手地区ではアンコウ、キダイ、ムシガレイ、和江地区ではアンコウ、ムシガレイ、アナゴが主に漁獲されました。総漁獲量は前年、平年を下回りましたが、これは荒天による出漁日数の減少(前年の約6割)が原因と考えられました。

## 【定置網漁業】

出雲地区ではブリ、マアジなどが漁獲され、漁獲量は平年の1.3倍となりました。隠岐地区ではマアジ、ブリが主体で平年の2.1倍の漁獲量となりました。石見地区でもブリ、マアジが主体で、平年の9割の漁獲量となりました。

## 【釣・縄】

各地区とも時化の影響により出漁日数が少なかったことから低調に推移しました。石見地区ではブリ、ケンサキイカ、アマダイなどを対象に漁獲量は平年の6割でした。出雲地区ではブリ、ケンサキイカなどを対象に漁獲量は平年の7割でした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類を主体に、漁獲量は平年の5割でした。

【平成 19 年 5 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大中型)	浜田	マアジ	397トン	65	57	12トン	63	85	○
	西郷	マアジ、カタクチイワシ、ウルメイワシ	2,984トン	66	78	49トン	98	127	◎
	浦郷	マアジ	1,981トン	75	93	37トン	101	150	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	9トン	65	10	164kg	120	65	▲
	西郷	スルメイカ	2トン	31	6	139kg	103	48	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ、アナゴ、アンコウ	366トン	90	105	15トン	124	139	◎
小型 底びき網	久手	アンコウ、キダイ、ムシガレイ	138トン	62	65	689kg	98	103	◎
	和江	アンコウ、ムシガレイ、アナゴ	218トン	80	77	735kg	121	112	◎
定置網 (大型)	浜田	ブリ、マアジ	26トン	116	93	1258kg	119	101	○
	美保関	マアジ、ブリ、アオリイカ	162トン	93	187	3419kg	96	172	◎
	浦郷	マアジ、ブリ	37トン	88	92	1456kg	94	58	▲
釣り・縄	仁摩	ブリ、メダイ、ケンサキイカ	12トン	61	64	27kg	77	79	▲
	大社	ブリ	27トン	35	61	37kg	55	95	○
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ	9トン	79	40	25kg	88	69	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下